

朝夕涼しくなりましたね。
季節の変わり目は、体調を崩しやすいので
気をつけましょうね。
さて、夏休みの読書感想文では今年も
『君の臍臓をたべたい』が圧倒的に多く、
住野よるさんの人気うかがい知れます。
秋の夜長は、やはり読書に限ります。さあ、図書
館だよりを持って新しい本と会いましょう！



○住野よる特集

今月は阿波高生に人気の住野よるさんの本をご紹介します。『君の臍臓をたべたい』しか読んだことのない人、その1冊をきっかけに、あなたも住野よるワールドに足を踏み入れてみましょう！



『また、同じ夢を見ていた』

友達のいない少女、リストカットを繰り返す女子高生・・・、彼女たちの「幸せ」はどこにあるのか。「やり直したい」ことがある、「今」がうまくいかなない人たちへのメッセージ。



『か「」く「」し「」ご「」と「」』

何年か前の図書委員さんも紹介してくれていたこの本は、5人の高校生が主人公の短編小説です。高校時代ならではの甘くて切なく、そしてもどかしい・・・まさしく今の皆さんのための小説です。



『麦本三歩の好きなもの』

麦本三歩という図書館員が主人公。彼女の何気なく愛おしい日々を描いています。『君臍』とか『よるのばけもの』などとはちょっと違うテイストなので、作者の新しいドアを開けるつもりで読みましょう。

○さ～て、新書を読んでみよう！特集

「小さな本から広がる世界」

これは2019年6月30日の朝日小学生新聞の新書を紹介した記事の見出しです。「岩波ジュニア新書」編集長の山本慎一さんに取材した、小学生へ新書を勧める特集でした。記事を一部抜粋しますね。

新書は1938年に岩波書店が世に出した、日本生まれの本のかたちで、今では国内の多くの出版社から出ています。(中略)新書にのっているのは説明文や論説文、事実にもとづいて書かれる「ノンフィクション」など。山本さんは「気軽に読めるページ数に、一つのテーマがまとまっている」のが特徴だと言います。

専門的な知識を多くの人にとどける入門書の役目も。たとえば岩波ジュニア新書の『人とミルクの1万年』(著平田昌弘)は1冊1万円もする専門書を元に、中高生世代に向けて書かれました。

ということで、新書は、論文や専門書みたいに専門用語が分かる一部の人だけに向けて書かれたものではなく、そのテーマを初めて読む人もついていけるように分かりやすく書かれたものなのです。山本さんによると「読書が得意でない人にごそ向く本」で、「社会のごとに関心がある人には特にオススメ」だそうです。

岩波ジュニア新書では、特に「いま10代に考えて欲しいこと、知って欲しいこと」ということを念頭にテーマが決められているそう。筑摩書店からも中高生向けに「ちくまプリマー新書」が刊行されています。新書は難しそう、という人は、まずこの二つのシリーズから挑戦してみるといいかもしれませんね。

ちなみに、漫画大賞ならぬ「新書大賞」というものもあるので、今回は2019新書大賞と岩波ジュニア新書人気ランキングの上位5冊とちくまプリマー新書のロングセラーから5冊をご紹介します。阿波高図書館にあるかな～？

2019新書大賞

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 大賞 『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』 | 中公新書 吉田裕著 |
| 2位 『文系と理系はなぜ分かれたのか』 | 星海社新書 隠岐さや香著 |
| 3位 『陰謀の日本中世史』 | 角川新書 呉座勇一著 |
| 4位 『日本が売られる』 | 幻冬舎新書 堤未果著 |
| 5位 『原民喜 死と愛と孤独の肖像』 | 岩波新書 梯久美子著 |

岩波ジュニア新書人気ランキング

- | | |
|-------------------|--------|
| 1位 『砂漠の世界史』 | 川北稔著 |
| 2位 『詩のころを讀む』 | 茨木のり子著 |
| 3位 『〈銀の匙〉の国語授業』 | 橋本武著 |
| 4位 『社会の真実の見つけ方』 | 堤未果著 |
| 5位 『パスタでたどるイタリア史』 | 池上俊一著 |

ちくまプリマー新書ロングセラー

- | | |
|------------------|--------|
| 『おとなになるってどんなこと?』 | 吉本ばなな著 |
| 『池上彰の憲法入門』 | 池上彰著 |
| 『ふるさとを元気にする仕事』 | 山崎亮著 |
| 『友だち幻想』 | 菅野仁著 |
| 『植物はなぜ動かないのか』 | 稲垣栄洋著 |

10月号は2年生図書委員さんが担当します。お楽しみに！

